



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〈第五十号〉

しょうかん  
小寒 一月五日

## 宇治橋

新年おめでとうございます。

今年の伊勢詣は、宇治橋と仮橋の二つの橋を渡る二十年に一度の機会とあって、多くの参拝者で賑わっています。

慣れ親しんだ宇治橋は、来月二月一日で渡り納めとなり、解体されますが、平成元年十一月三日に渡始式を終えてから二十年、参拝者の足を支えてきました。当時の写真を見ると、渡始式で真新しい橋を先頭で渡る渡女の奥山ゆきえさん八十歳の姿があります。ご存命ですと百歳でいらつしやるはずです。

内宮の玄関口である宇治橋は、聖域と俗界をつなぐシンボルとなっています。これまであたり前のように神社の橋を渡っていましたが、先日、英語教育が専門の皇學館大学の豊住誠先生にうかがうと、改米では橋を渡って教会や聖地などへ行くことは一般的ではないということでした。むしろ空に架かる虹が、ノアの箱舟の際の大洪水の後に現れ、神と人との契約の証と聖書に記されているため、神との関わりと感じるそうです。

「虹は雨で作られた弓という意味ですし、橋もアーチ橋があるように、弧を描く形はよく似ていると思いますよ」

英語の bridge は「橋」のほかにも、比喩的な表現として、「すき間をうめる」や「調停」のように、橋渡しや仲立ちという意味に使われるところは日本語と同じですが、神域とは結びつかないのです。

宇治橋を渡って、内宮へお参りする。神道ならではのシステムといえるのでしょうか。今年の内宮前は、橋が注目を浴びる一年になりそうです。

文 千種清美

